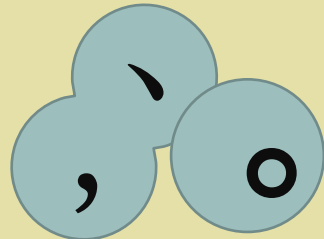


国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語の表記から考える書き手の個性

著者	岩崎 拓也
URL	http://doi.org/10.15084/00003203

日本語の表記から考える書き手の個性



国立国語研究所 日本語教育研究領域
特任助教（人文知コミュニケーション）

岩崎 拓也（いわさき たくや）

私は日本語の表記の中でも、マル「。」と
テン「、」（句読点）の研究をしています。
簡単にみえる日本語のマル「。」とテン「、」で
すが、意外と悩むところがあるんです。

マル「。」とテン「、」の“一応の”ルール（の一部）

マル「。」 文の終わりにつける。

かぎカッコ「」の中の文の終わりにつける。

テン「、」 文の中止に打つ。副詞的語句の前後に打つ。

マルのゆれ

学校ではかぎカッコ「」の中の文の終わりにマルをつけると習う。

・「ぼくの顔をお食べ。」

でも、実際には句点をつけない場合が多い。

・「ぼくの顔をお食べ」

→学校で習うマルのつけ方と社会一般のマルのつけ方は異なる。

テンのゆれ

- ・僕の顔を食えるとみんなニコッと笑顔になるんだ。
- ・僕の顔を食えると、みんな、ニコッと笑顔になるんだ。
- ・僕の顔を食えるとみんな、ニコッと笑顔になるんだ。
- ・みんな僕の顔を食えると、みんなニコッと笑顔になるんだ。

→書き手によってテンを打つ位置が違ふことがある。

まとめ

- ・マル「。」とテン「、」は、簡単なようで悩むところがある。
- ・みなさんにとって見やすくわかりやすい表記方法を考えていく必要がある。

みなさんの句読点はどうか？

自分の文章をぜひ確認してみてください！